

Organo de Hokkaido Esperanto-Ligo.

LEONTODO

N-ro 45

1971

DEC

* アイヌ民話エス語軌道に *

才35回北海道エスパラント大会で可決された。アイヌ民話の共同翻訳について、その後適当なテキストを検討していましたが、その結果知里幸恵編「アイヌ神話集」(弘南堂書店発行)を選ぶことにしました。「其の昔此の広い北海道は、私たち先祖の自由の天地でありました……」とアイヌに生まれアイヌ語の中で育った知里幸恵が、滅びゆく民族と言語を哀れみつつ書き残したこの神話集こそ、私たち道内に住むエスパーランチストが、力を合わせて訳出するのにふさわしいものだと思います。

内容は、13の yukot と序文その他からなっています。このうちすでに「銀の滝降る降るまほりに」は S-ro 星田と私が、「サンパヤ テレケ」は S-ro 山賀が、「此の砂は赤い赤い」は S-ro 星田が、「アロロハノクハ」は私が訳出するには訳出中です。

訳出箇所の分担、訳語の調整その他の共同研究相談のため「アイヌ民話エス語研究会」を作りたと思います。できるだけ多数の参加を望みます。翻訳参加希望者の方は訳文をそえて、私あて来年1月迄にご連絡下さい。訳文は、Leontodo に発表する予定です。

(千文、池本)

才「アイヌ神話集」 ¥450 札幌市北12条西4丁目 弘南堂書店
発行。振替(小樽) 3515. Tel. 711-9429

アイヌ民話エス語研究会事務局

066. 千歳市本町4-7-6. 池本盛環 Tel. (01232)3-3434

才 2 回 連盟委員会報告

1971年 11月 14日

中央タイピスト学院にて

出席者: 高橋 (pres), 沢谷 (sekr), 市川 (函館), 山賀 (小樽), 星田 (苫小牧), 池本 (千文), それに observanto としての 堀玉 (苫小牧) の各氏。主として機関紙の発行について討論が集中しました。

1 機関紙の発行体制について

各ロンドの持ち回りなどによる発行の方法はいろいろ考えられますが、各ロンドの「お家の争闘」を考へてみると、実際可能なロンドはほとんどないのが現状。したがって、当面は事務局がその発行に努力することになりました。ただし事務局の負担をなるべく軽くするために、採稿者の方は できる限り、エス文の場合、タイプをまわっている人はタイプで、和文の辭場合も書きて、

清書し、そのまま騰写スワックスにかけ紙を5つくらいに協力してもらうことになりました。美しく読みやすい印刷にするため、連盟として中西の和文タイプの購入を検討していくことになりました。

2. 「北海道エスパラント小史」の復刻について。タイプ騰写印刷の種で S-ro Ikemoto が費用の懸念について調査することになりました。1935年代までの各地のエス運動のみならず、1945年までの記録を今のうちに関係者から収集しておてはということも話題になりました。

新会員自己紹介

笹村貞雄さん(札幌エス会)

満62才とは、異例のこころが、皆さんの仲間入りして Esperanto を習い
初めるとは、何ヶ月、これからは皆さんの仲間入りして Esperanto を習い
た気持ちは、少しもありません。直接の動機は、近く独りでヨーロッパ
を主として出れば、一週り海外を歩いてみたいと思立っているこ
とです。英語を話して通じない国々に行つた時、ただ道をきいたり
物の値段をきいたりする以上、心づいて表現する言葉も覚えていて、そ
の国の人の心を知りたいことと、自分を理解してもらえたら、どん
なに楽しいかと思つておるのです。そしてあわよくば、その国の人々の中
に同じように Esperanto を話して下さつて、こちらのことも理解しよう
と努力して下さる様子を、そんな広い心を持った人達と友人になれたら
と楽しみに思つておるのです。層深まることでは、私ほ、色々は興味を持って
いるのです。例えば、国々の食べ物のことです。所謂會通のよう珍ら
しい食べ物を採らうなどという事では、ありません。人々が日常どん
な食物を食べてその健康を保っているのか？ 長命者の多い国の食べ物
や環境条件は、どんなものなのか？ 短命者の多い国は？ というようなこ
とで、今は世界共通になつておるような贅沢な食物では、なく、その国の
在来の郷土食を知りたいのです。また自分が、今関係している児童
福祉の關係のことも、本で見ると以外にこの目で見て、実感をもちたいの
です。特に英語圏ではない東欧諸国やその他の国々でも、あまり本に書かれ
ていない国々の事情を、かいて見ると、いいと思つておるのです。それ
も特に、これを専門にしている学者や福祉事業家のような研究的な困苦
しい考えなども、おつてはいません。それに、体を無理しないようなスケ
ールを組む時には、リュック（リュックを背負つて歩くつもりです）
の座にしのぼせた日本製の精巧な釣具で、よい水があったら仲間を求
めて共に釣をやつてみたい等の野心もあるのです。果して Esperanto
が、どの国でこのようなことに役立つのやらまだ見当がつかしません。
Esperanto は、習つてみて大層やさしい言葉だと思つておりました。ただ
なんと言つても、語学ですから根をつめて熱中する期間が、どうしても必
要だと思つておるし、繰り返して頭にたたき込むことが大切だと思
つておるのです。

結局西も東もわからぬ子、知らぬ土地に立つてみて、辞書をひき
ひき片言で語り、帰つてきて少しわかりはじめるというようなことに
なるのではないかと、思つておるのですが、若し少しでも覚えたら出来るだけ友
を広く海外に求めて通信を交したり、会合に出たりして、少しでも自分
の生活が心温く豊かになるよう努めたいと思つておるのです。

三浦邦子さん(無所属=individual member)

一つの言葉で世界各国の人々の意志の疎通によって、平等に話し合

ることは、だれでもが長い間熱望してきたことと思います。私も心
から世界中の人々が平等であり、かつ平和であらねばならぬと思いま
す。エスペラントを目にしたのは、友人と時々「平等」とか「平和」
の問題で色々話し合っていた時です。その時は一つの「暗号的
存在にしか思えず、ハッキリ言葉」という実感がわかなかった。
今もまだ「あるようば、ないようば」存在にしか思えない。しかし
インヤリ、ある種の人間にとって無関心ではいられない。特に何かの
エスペラントにあるようば気がする。

私は鎌倉で、受講生の一人として学んでいたのですが、色々な事情
もあって、やっぱりやらなかつたり、だらだら時の流れにのせてなん
か六ヶ月の初級講習を終えてきたつもりです。でも現在は生活に追
われ、エスペラントも御無沙汰している次第ですが、やはりエスペラン
トの展望を願うならエスペラントにおける言葉の積み重ねが必至と思
います。今またぼちぼち勉強しております。将来において、世界平和、平
等を願う一人として、私なりの強さと広さを持って続けて行くつもり
です。(Miura Kuniko; 063 札幌市琴似町発寒 市営住宅1-206)

(ひとこと ひとこと)

Leontodo 受け取りました。分
り内容で大変だったことでは
しょう。ところで、アイヌ民話の
エス語を読ませてもらいました
が、「Aino-Kalkulado」を山賀さん
が何故えらんだのか、首をか
けています。79分、日本人の
ずるさをこの中でとりあげた
ものだと思いますが、客観的に
考えると、このアイヌ勘定の
話、日本人がアイヌを馬鹿に
したものだと思います。Aino-
maniero といいますが、それは
違うのでしょうか。アイヌに
言わせると、それはシャモ勘
定だと言います。笑い話だ
といえませんが、誰が誰を笑
った話なのでしょう？

わたしは今夏の苫小牧での大
会に若干の意見を述べようと思
っていたのですが、予定どおり
に行けない事情が発生し残念で
した。アイヌ民話のエス語一
それはエス語であって、エスペ
ラントの思想の息吹きが通った

(El postarto. El postkarto)

のであるべきでしょう。エスペ
ラントの笑い、エスペラントの
怒り、エスペラントの嘆き一そ
ういうものに満ちたものでな
かったとしたならば、どこにエ
ス語の意義があるのでしょうか。
エスペラントの思想とは、感情
とは、はたして何か？それはよく
、わたしには分かりません。そ
してまた、それ自体の追求がな
されるHELであって欲しいので
す。(沙流郡日高町S+0
向井)

10月の中頃、グーテンベルグ
の観光協会から手紙が来ました
。必死で訳した結果、観光に関
する案内らしいということがわ
かりました。

こちらは毎日 Tre malvarma, s-
ed mi tre bone fartas, kaj mi l-
ernantas esperanton.

Kun kotaj salutoj.
Olavo Tomiko.
(名寄市 F-ino 荒家)

LEONTODO のeldonoguro
うさまでした。多少 malputarj の
ほともかく、内容的にどこかし
ら意欲的な新しさが感じられま
した。道内に広く散在する esp
erantistoj の solidareco を維持して
いく上で Organo の定期的発行は
最も重要なものと思います。
(苫小牧 S-to 影浦)

若者よ走れ頑張れ。59才の若
者もまた続くよ！
(歌志内市 S-to 大友)

指導者は、人間性、人格が自
の老言う。人物がすぐれている
と、一度きりによるともう離れ
る事がないです。たとえば S-to
新田のような人物こそ指導者に
さいたる人物です。
(苫小牧市 S-to 有藤)

エス語を勉強したい気持ち
充分あるのだが、問題は色々あ
る。第一並びに二まは仕事があ
る。他に是非読まなければなら
ぬ本がある。七月かに一時は
... 会をやめた。だから八月号
を知らない孫三人に是非やらせ
たいと思っている。
(大樹町 S-to 米山)

Mi esperas senfinan progres
son de HEL. Vivu esperanto!
(帯広市 S-to 中西)

60の手習をこれから始めるの
で何分よろしく。(金沢市 S-to 福田)

Esperanto estas mia amat
ino jam pli ol de 10 jaroj - ling
vo studita - sed estas la pl
ej simpla, regula, kaj obeemal
(江差町 S-to 北城)

若い力を結集して、力強い運
動をよみがえらせて下さい。陰
ながら応援いたします。
(由仁町 S-to 新田)

勉強は長らく中断してしまし
たが大会には出ています。次
才に時間的余裕が少しづつ
出来るようですから、また勉
強に精出したいと思っています。
(南松郡厚真町
S-to 菅原)

エスペラントは、この春三ヶ
月程触れただけで、ずーと離れ
ていましたが、また学習したい
と思います。(札幌 S-to 仁熊)

Vere mi partoprenis Lond
onan UK-on, kaj volas rapo
rti pri ĝi. Sed nun mi estas
tre okupita. Bonvolu atendi p
ot kelka tempo mi petas.
(遠軽町 S-to 屈江)

旭川エス会の復活に努力した
い。(旭川市 S-to 竹百)

Ĉiama komencanto mi es
tas ankoraŭ (滝川市 S-to 岡本)

第3回 連盟委員会

1月9日(日)(PM:00) まま新年会に発展しようとして、
札幌市南2西4, 中央タレント学院で

開かれます。雰囲気として、その
委員以外の方もどうぞ出席してください。
事務局

SINPREZENTO de s-ano Ikutaro Kitaĝo en Esaŝi,
 kiu bonvolis nove fariĝi membro
 de nia Ligo.

Gesamideanoj!

Saluton de nova esperantisto! Eble mi estas relativa mal-
 junulo en esperanta rondo; aŭ eble esperantistoj ne parolas agon?
 Mi estas altlerneja instruisto de angla lingvo, sed specio de
 'poligloto' kun scioj pri angla, germana, franca, rusa, korea,
 norvega, nederlanda kaj mongola lingvoj.

Rilate esperanton, mi konis, de antaŭ nememorate multaj jaroj,
 pri la ekzisto de tiu internacia, artefarita kaj idealoplena lin-
 gvo. Kiam mi eniris Hokkaido universitaton, mi unuafajle kontaktis
 kun iu esperantisto, samĉambrano ĉe pensiono Keiteki, de kiu mi
 akiris esperantan libron. Sed, plue dek jaroj devis forpasi ĝis
 kiam mi praktike komencis lerni tiun ĉi signifoplenan lingvon.
 Lerninte dum du jaroj, mi estas ankoraŭ esperanta bebo, kion
 atestas tiu ĉi 'lamanta' sinprezento, ĉu ne?

XX OKT. ~ DEC. '71
 YYYYYYYYYY FINANCA RAPORTO YYYYYYYYYY
 XXX 1971.12.25

enspezo

繰越金	94,676
HEL 大会残金	8,860
	460
NF紙 (0.6割) 雑金	8,400
会費	200
寄附金 (500米)	500
雑収 (6,000)	
	<u>¥113,096</u>

elspezo

Leontodo 表紙印刷費	9,000
界内状 その他印刷費	3,400
	1,000
贈与 フクス代	1,062
事務用品 (封筒等)	1,100
郵便料 (TDF)	4,015
ゴム印	820
振替口座開設料	50
	<u>¥20,447</u>

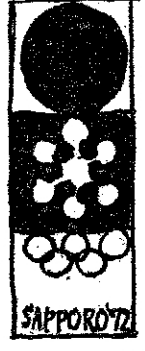
∴ 現在高 ¥113,096 - ¥20,447 = ¥92,649

* 会費内訳 (¥8,400)
 69年分 1名
 70年分 3名
 71年分 16名
 72年分 1名

内訳
 定期 ¥60,000
 郵貯 ¥20,000
 振替 ¥4,600
 現金 ¥4,049

XXXXXXXX XXXXXX XXXXXX XXXXXX XXXXXX XXXXXX XXXXXX

Granda Kampanjo per kaj por Esperanto
 okaze de Vintraj Olimpikoj en Sapporo, '72



Laŭ la propono de s-ro K. Kimura, sin turnis al la varbo de "bonvolaj
 interpretistoj" s-anoj Aizaŭa, Takahaŝi, Nasu, Sawaya, Ŝimizu, Yama-
 ga (OTARU), Hoŝida (TOMAKOMAI) kaj Kimura, kaj ĉiuj estis oficiale al-
 prenitaj kiel bonvolaj interpretistoj. La 12an de decembro, ĉi tiuj
 8 samideanoj kolektiĝis ĉe Kōseinenkin-kaikan en Sapporo por ricevi
 koncernaĵajn materialojn. D-ro Yamaga prenis memorfoton de ĉi tiuj bon-
 volaj interpretistoj de esperanto, kiu aperigos ĝin en A. Nagata
 sur la organo de UEA "esperanto"

ĈU ĈI TIU TAKTIKO SUKCESOS ?

KIE ESTU LA PARTO ?

Pratempe, kiam dioj kreis homon, ili cerbumadis, kie estu ĝia genera parto, grava por ĝia prospero. Unue kelkaj dioj diris;

"Kion vi opinias pri frunto por la loko? Ĉiu povas facile trovi ĝin."

"Jes, bone."

Tiel oni preskaŭ konkludis, tamen aperis opono,

"Homoj povus generi tro facile eĉ dum salutoj."

Diskuto revenis al la komenco.

"Do, kie ĝi estu?"

Post longa diskuto, ili preskaŭ konkludis, ke ĝi estu en akselo, sed opono "Homoj generus dum amika brakumeto....."

Jen tiel, jen ĉi tiel, dioj serĉadis la lokon por ĝi longe en cerbumado kaj fine venis al la konkludo, ke ĝi estu inter ambaŭ femuroj, kio efektiviĝis kiel ni vidas nun.

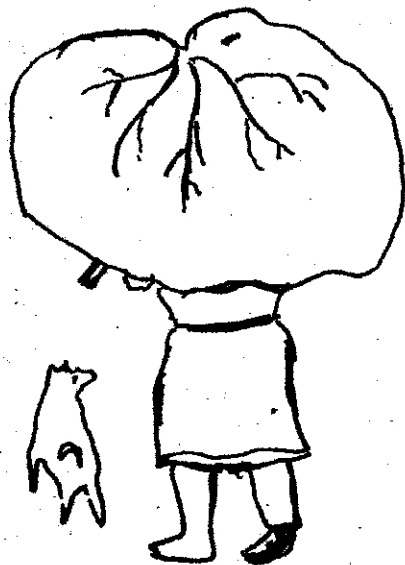
Hodiaŭ ni trovas hararon ĉe niaj akseloj kaj kapo kiel ĉe nia pubo. Tio estas la spuroj de la unuaj provoj de dioj, kiam ili cerbumadis tiel.

(Tradicias s-ro K. Jae^{en} Securi, Kuŝiro)

Pri tio tradicias Hidaka'anoj iom aliel:

NENIU ESTAS PLI FORGESEMA OL LUTRO

En la Ĉielo dioj kunvenis por diskuti, kie estu la grava parto generi, kiam ili kreis homon. Ili decidis, ke ĝi estu sur la fronto, ĉar ĝi estas grava, kaj endis lutron por informi tion al Dio Terkrea, tiam kreanta homon sur la tero. Tamen la lutro trovis fiŝojn veninte surteren en apuda rivero, kaj tuj ekĉasis ilin. Do li tute forĝesis la mesaĝon de la dioj kaj diris, ke la parto estu ĉe la pubo, kiam li venis al la Dio Terkrea. Do la Dio metis ĝin laŭ tiu falsa mesaĝo. Tiel ankoraŭ nun oni diras, "Neniu estas pli forgesema ol lutro."



Tradukis A. Hoŝida el "POPOLRAKONTOJ DE AINOJ" (komp. de Sarasina Genzō, p.15, eld. de Kita-syobō, Sapporo, 1970)

Hepato de leporo

Aina rakonto

Tradukis A. HOŝIDA

Unu leporo, ĝoje pro la bela vetero ludis kuri sur la dunoj ĉe marbordo. Ĝi trovis multajn eŭmetopiojn kune ripozantaj tie. Volante alŝerci, ĝi kuris malsupren de la dunoj, alsaltis sur la dorson de unu eŭmetopio, kaj saltadis de unu dorso al la alia. Sed ili montris neniom da malŝato, nek movis sin.

Fariĝinte pli aplomba, ĝi iris iom post iom foren de la bordo, intence premante kapojn aŭ tiklante al ili, ĝis ĝi fine atingis sur la plej grandan eŭmetopion. Tiam la granda besto senmove dormanta ĝis tiam, subite eknagis formaren kaj ankaŭ aliaj akompanis ĝin.

"Idioto!" mokis la granda besto al la leporo sur sia dorso, "Ni venis ĉi tien por serĉi leporon, ĉar ni volas kuraci malsanan filinon de Atujkorohenke (la maljunulo reganta la maron = testudo) per via hepato. Jen vi venas ĝuste por kaptigi memvole!"

Surprizita estis la leporo, tamen diris, "Ha, estas bedaŭrinde por vi. Bonefikan hepaton mi metis sur la monto por sekigi ĝin, la nun portata estas tute senvalora kiel medikamento."

La eŭmetopio senkuragiĝis. "Ho, ĉu vere! Tio ne utilas! Mi portos vin ankoraŭfoje al la bordo, do bonvole portu al mi la bonefikan de la monto."

Kiam la marbestego atingis la plaĝon, la leporo saltis sur la sablon kaj ridegis saltante, dancante kaj mokante, "Kie en la mondo troviĝas ulo kun pluraj hepatoj, hahaha, hahaha!"

(Tradicias S-rino B. Kaŝiŭagi en Sooĵa)

Rimarko: Tute saman rakonton oni trovas apud Rivero Isikari. Apud Rivero Saru en la rakonto aperas simio kaj testudo, tute same en la japana rakonto. Do, oni povas scii, ke tiu rakonto disvastiĝis de Hindujo tra Koreujo kaj Japanujo.

Eŭmetopio: Eŭmetopias jubata (Schreber)

En la simila rakonto de Hidaka Monbecu, tradiciata de S-rino E. Hiraga, aperas orcino (Orcinus orca) anstataŭ eŭmetopio.

アイヌ民話など 翻訳状況、私見

星田 淳(哲小教)

LEONTODO N-ro 44 に Rakonto pri ŝiŝamoj, それからあと2篇も完了 (Kie estu la parto? と Hepato de leporo), 以上の篇は更科著「アイヌの民話」からです。なお S-roj 岡尾、池本も注目している 知里幸恵著「アイヌ神話集」は、今のところ S-roj 星田、池本がその半作品 "Kamuichikap Kamui..." に手をつけています。星田は 11月半迄、 $\frac{2}{3}$ 位をやりましたが、訳語、行の分け方その他、原作が詩の形だけにどんな訳がいいか、考えることが多い。原文には韻もないので自由詩の形でも散文詩でもいいのだろうが、ここでやはり才能の問題が出てくる。詩の形にして、慣例によりユーカラの唱え方、息つき毎に行をかえると、かなりこま切れとなり行数が多くなるという問題もある。

それから今迄に既に訳が出来ているものも、査検、整理してみたいと思う。過去の LEONTODO から拾うと小樽の S-ro 早川の作品がたくさん見当る。よみ直したうえ、我々の rakontoj に入れたらどうかと思う。私の拾い出したものを次に並べてみる。

L. N-ro 4, p18	Ekvido al aina festo
" 5. p17	Roko Ĉaranke
" 7. p32	La Urso - Festo
" 19 p7	Parolfragmentoj de iu aino
" 20 p6	"
" 25-26 p54	El la legendoj de la ainoj ----
" 37 p25	El forneja babilado ----

HOKKAJDO POST 50 JAROJ (Trafiko kaj Turismo)

Antaŭ 23 jaroj, en 1948, mi skribis tiun ĉi sonĝon kaj hazarde trovis ĝin ĉe la fundo de mia tirkesto.

D-ro Isamu YAMAGA (Otaru)

En julio de 1998 s-ro Sato, studento ĉe scienca fakultato de Hokkajdo Universitato, restadis ĉe sia hejmloko Aomori kun siaj gepatroj en libertempo. Tiam li ricevis leteron de s-ro Donders, nederlanda studento pri literaturo, kun kiu li jam antaŭe havis korespondadon. Li skribis, ke li nun en somera libertempo vojaĝas tra la mondo kaj vizitos Japanujon kaj se eblos, deziras veturi en Hokkajdo gvidate de la amiko.

Kompreneble s-ro Sato volonte akceptis kaj bonvenigis la fremdlandan amikon kaj kune kun li ekvojaĝis unue al Hakodate tra la ĵus farita submara aŭtovojo inter Aomori kaj Hakodate, la plej longa tunelo en la mondo. Ili tranoktis ĉe la bordo de lago Oonuma.

La fervojo jam estas tute elektrigita kaj oni bezonas nur 4 horojn por veturi inter Hakodate kaj Sapporo. La fervojo estas plejparte subtera kaj oni jam ne povas vidi transirejon, kiu antaŭe trapasis sur strato, kaj plie neniam trajnoj estas videblaj, kiuj malpurigis la aeron per nigra karbona fumo. Anstataŭe la surtera trafiko konsistas en pavitaj aŭtovojoj, kaj tie kaj tie oni trovas restadejojn aŭ hotelojn por manĝi kaj ripozi. Alie oni povas pasigi en la aŭto kaj manĝi kaj dormi. La junuloj ambaŭ alterne veturigas la aŭtomobilon kaj tranoktas en la tendo.

La sekvantan tagon frue ili ekveturis de Oonuma al lago Toya. Survoje ili trarigardis la marbordon de Golfo Hunka (erpucio). Ĉirkaŭ la lago Toya ili veturis kaj ripozis ĉe hotelo de varma fonto. La trian tagon ili atingis Muroran kaj tie posttagmeze inspektis grandan ferfabrikon. En la krepusko ili ripozis ĉe varma fonto Neboribetu. La kvaran tagon ili atingis Sapporon tra lago Ŝikotu. Laŭ invito de prof. Sanada, medicina fakultato de Hokkajdo Universitato kaj estro estro de Esperanto-kultura Ligo. Ili tranoktis kaj restadis en lia hejmo. Kelke da tagoj tie ili pasigis kaj rigardis vidindaĵojn en Sapporo kaj vizitis Hokkajdo Universitaton, kiu festas la 150-jaran jubileon. Al Otaru oni povas veturi per subtera trajno 20 minutojn po 10 kaj observi eksterlandan komercan havenon. Ĉe la internacia laktaĵ-agrikultura fakultato, Nopporo, s-ro Donders vizitis sian junan kuzon s-ron Snellen, kiu restas por studi en tiu somero, kaj povas rigardi la praarbaron, ankoraŭ rezervitan.

Oni povas veturi al ĉefaj urboj en Hokkajdo per regula aviadilo, du fojojn ĉiutage. Uzante tiun frafikon ili flugis al Obihiro kaj plie superrigardis la nacian parkon Akan sur aerplano. La sekvantan tagon ili veturis al Kusiro kaj Nemuro tra la marbordo de Pacifika Oceano kaj Oĥocka Maro kaj plie enlanden ili turniĝis al Kitami kaj Asahigawa subrigardante la montaron Daisetŭ.

北海道エスペラント連盟会員住所録

(1971年12月現在)

加 盟 団 体 (略 称)	連 絡 先
函 館 エ ス 会 (H E S)	040 函館市田家町12-15, 市川 忠 方
小 樽 エ ス 協 会 (O E A)	047 小樽市花園3-8-13, 山 賀 眼科内 TEL 2-7918
苫 小 牧 エ ス 会 (T E S)	052 苫小牧市白金町1, 4-8-15 星 田 淳 方
札 幌 エ ス 会 (S E S)	060 札幌市南2条西4, 中央タイピスト学院内 TEL 251-4750, 振替(小樽)8310
ロ ン ド ・ ノ ル ド (R N)	063 札幌市琴似8軒10条東1 森竹方 清 水 寛 気 付
千 歳 エ ス 会 (T E R O)	066 千歳市幸町5, グリーンベルト, ヴェルダドーム内 TEL 01232(3)4830

◎ grupoの欄のIは個人会員を、他は所属のロンドをしめす。

n o m o	a d r e s o	t e l e f o n n u m e r o	g r u p o
市 川 忠	040 函館市田家町12-15		H E S
井 上 久	040 " 松陰町1-10		H E S
白 木 恵 子	040 亀田市富岡9		H E S
小田島 栄	049-01 上磯町七重浜391-10		H E S
国 兼 信 一	042 函館市花園20-13	51-0531	H E S
高 野 富 輝 夫	040 亀田市中道9, 北大北農寮内		H E S
高 屋 紀 恵 子	040 函館市入舟町11-19		H E S
土 谷 孝 子	040 " 東雲町 国鉄宿舎		H E S
藤 原 信 吉	042 " 深堀町26, 301-8号		H E S
吉 田 栄	040 " 弥生町7-4	23-6716	H E S
北 城 郁 太 郎	043 山郡江差町愛 町		I

n o m o	a d r e s o	telefont numero	grupo
那 須 栄	049-31 山越郡八雲町浜松		I
桜 井 甚 吉	045 岩内町万代		I
石 黒 美	047 小樽市奥沢 5-142	2-6089	OEA
江 口 音 吉	047 " 奥沢 1-24-21	2-3827	OEA
追 分 宏	047 " 汐見台 2-2-12		OEA
大 橋 敬 子	047 " 長橋 1-18-11		OEA
佐々木 郁 子	047 " 長橋 3-17-9		OEA
崎 野 洋 子	047 " 長橋 4-2-17		OEA
早 川 昇	047 " 緑 1-17-4	2-0757	OEA
宮 城 由利子	047 " 奥沢 1-3-6	5-2359	OEA
宮 林 徳 子	047 " 長橋 2-1-15		OEA
山 賀 勇	047 " 花園 3-8-13	2-8016 (自宅) 2-7918	OEA
山 賀 弘 子	047 " 花園 3-8-13		OEA
大 島 俊 之	050 室蘭市水元町 20-6,石川原方	4-1397	I
須 藤 昭 三	050 " 高砂町 1-43-12		I
平 田 岩 雄	050 高砂町 5-9-5		I
渡 辺 智恵子	051 " 御崎町 2-15-16		I
梅 木 孝 昭	053 苫小牧市美園町 19		TES
影 浦 英 明	053 " 木場町 36.A1-12		I
北 畠 瞳	053 " 山手町 2-1-2		I
木 村 洋 子	053 " 西町 13-12	2-5067	TES
児 玉 広 夫	053 " 中野 95-1	2-3286	TES
斉 藤 千 寿	053 " 北光町 4-15-16		
星 田 淳	053 " 白金町 1,4-8-15		TES
星 田 文 子	053 " 白金町 1,4-8-15		TES
小 林 二 男	059-15 勇払郡早来町栄町公営住宅		TES
菅 原 鉄 雄	059-17 勇払郡厚真町鯉沼 88		I
相 沢 治 雄	063 札幌市北37西5,すみれ荘		SES
青 木 了 子	三笠市幾春別 4	8408	SES
アリマ ヨシハル	060 札幌市大通西10,北大通アパート	251-5853	SES
伊 藤 隆 夫	065 " 北18西3,遠藤方		R N

n o m o	a d r e s o	telephon m e r o	g r u p o
稲村 崇	068 岩見沢市緑が丘21境方		R N
江口 正元	065 札幌市北28西3		SES
葛西 藤三郎	060 札幌市厚別ひばりが丘公園通り7-12		SES
木村 喜壬治	062 札幌市白石町本通り17南1001	861-7564	SES
黒川 恵美子	065 " 北7東13		R N
ゴト一 ヨシハル	062 " 白石平和通り6		SES
小林 正明	062 " 美園5-4,中央荘	833-708	R N
斉藤 和子	062 " 丘珠664-1099		R N
斉藤 千枝子	063 " 琴似山の手2-10		R N
笹村 貞雄	062 " 菊水上町100	811-6517	SES
佐々木 成子	062 " 月寒東2-3-71		SES
佐藤 恵子	063 " 新琴似11-1		R N
佐藤 雅博	065 " 北13西1 欠方	721-2768	R N
沢谷 雄一	063 " 琴似町宮の森811-4 雪印育英寮	611-1467	SESRN
清水 寛	063 " 琴似8軒10条東1森竹方		R N
杉山 純次	063 " 新琴似7-12	721-2688	SES
関尾 憲司	065 " 北21東12, 姫嶋方	711-7729	SES
関口 美津江	065 " 北42東2		SES
高橋 要一	062 " 豊平5-9, 道管住宅993		SES
田村 弥忠	065 " 北16東5, 大町方		I
戸田 恵子	060 " 南15西17, 鈴木方	551-2748	SES
那須 博文	065 " 北15東18, 若草荘		SES
仁熊 義則	065 " 麻生町17-15, 岡田方		I
西館 京子	065 " 北36東1, オホーツク 荘		R N
野元 哲浩	060 " 旭ヶ丘西4	511-5506	SES
福士 頭士	065 " 北13東1, 板橋方	711-4843	SES
藤井 重雄	062 " 真駒内上町2B1-4		SES
松岡 耕二	062 " 真駒内東町17		R N
松浦 豊	" 美園9-1, 八条アパート		R N
三浦 邦子	063 " 琴似発寒市管住宅1-206	551-2932	I
三沢 正博	060 " 南23西12, 教育大官舎	771-2833	SES

n o m o	a d r e s o	telefonu mero	grupo
嶺 正 子	061-31 札幌市篠路町上篠路 109-131	7 7 1-2 8 3 3	SES RN
山 岸 悦 子	060 // 南 7 西 1		S E S
山 崎 久 蔵	065 // 北 2 6 西 8	7 1 1-2 4 6 2	S E S
山 口 紀代美	060 // 南 1 0 西 7	5 1 1-2 8 9 1	S E S
吉 原 正八郎	065 // 麻生町 1 6-2	7 1 1-7 7 6 4	S E S
池 本 盛 雄	066 千歳市本町 4-7-6	3 4 3 4	TERO
井 手 裕 子	066 // 新富 1-9-1	5 3 9 7	TERO
市 川 祥 子	066 // 信農町 3		TERO
近 藤 哲 夫	061-14 恵庭市漁町 1 8 5	3 0 6 5	TERO
佐々木 雅 彦	066 千歳市幸町 4		TERO
島 影 均	066 // 朝日町 6		TERO
高 杉 キ ミ	066 // 新富 3-3-8 5		TERO
中 川 輝 子	066 // 朝日町 5		TERO
中 里 和 夫	066 // 春日町 1-1	5 1 8 1	TERO
藤 岡 明 美	066 // 日の出丘 7 2 7	9 4 7 7	TERO
藤 岡 里 美	066 // 日の出丘 7 2 7	9 4 7 7	TERO
新 田 為 男	069-11 夕張郡由仁町三川		I
竹 吉 正 広	070 旭川市川端町 3-6		I
大 友 鞆 一	073-04 歌志内市本町 7 7		I
岡 本 義 雄	073 滝川市朝日町 1 4 2-2 4		I
向 井 豊 昭	072-25 059-32 沙流郡日高町字三岩		I
辰 己 清 美	080 帯広市宝来		I
中 西 隆 嘉	080 // 南町 9 線 3 1		I
福 田 節 男	085 釧路市愛国 3 9-1 9 1		I
浜 田 国 貞	088-14 厚岸郡浜中町字浜中市街地		I
米 山 寅 吉	089-21 大樹町上萌和		I
	089-18 // 晩成(夏期のみ)		I
津 村 初 雄	090 北見市小泉 1 3 3-2 7		I
荒 家 登美子	096 名寄市大通北 4		I
堀 江 精 一	099-04 紋別郡遠軽町大通北 1-1	3 3 5 6	I

n o m o	a d r e s o	t e l e f o n u m o r o	g r u p o
長 岡 宏 昭	0 6 4 勇 払 郡 鵡 川 町 鵡 川 小 学 校 内		T E S

Reveninte al Sapporo ili trovis la malfermen de la somera kongreso de tutjapanaj studentoj, kaj s-ro Donders ĉeestis tie akompanate de la amiko Sato. Li salutis al kunvenantoj ĉe tiu bona okazo. Li rakontis, ke li nun vojaĝas tra la mondo per la internacia ingvo Esperanto kaj priparolis sian impreson pri Japanujo kaj precipe pri Hokkajdo. Pli ol duono da aŭskultantoj povis bone kompreni lian paroladon, sed por certigo la amiko Sato tradukis en japanan lingvon kaj ĉiuj aplaudis.

Kiel vi vidas, ili ambaŭ tute agrable kaj gaje travojaĝis en Hokkajdo kaj revenoje per vagonaro al Hakodate 4 horojn kaj tra la submara fervoja tunelo, kiu jam antaŭ 40 jaroj malfermita, finfine revenis ĥajmen posttagmeze. En reciprokaj koroj kun gajaj memoroj ili prenis manojn por adiaŭi promesante baldaŭan revidon.

名 ロンドの Zamenhof 祭 活動報告

RONDO NORDO

12月11日(土)午後6時半より、北大クラーク会館集会所にて、RNDに創立1周年記念をかねて行なわれました。bieroで乾杯し、1年間のロンドの活動をふりかえってみました。そのあとトランプあそびなどで楽しく過ごし、さらにいつものkafejokの流れ、時間までおぼりました。参加者8名

RNは11月11日で4月から使っていたteksto "A Practical Course in Esp."を終り、現在例会では大学書林の"やさしいエスペラントの読みもの"(¥450)それに最新刊の名著"和文エスペラント研究"(¥800)が使われています。'72年は1月13日(木)(午後6:30~9:00)北大クラーク会館集会所より例会がはじまります。

札幌エス会

12月12日(日)午後1時より中央ダイオキスト学院でE-祭。秋の講習会を終了した2人のnovaj samideanojをふくめて全部で10名が出席し、約3時間半にわたるエスペラント談義に花を咲かせました。とくにSESの最長老メンバーである藤女子大のprof. Yamasakiがおいでくれたので、いろいろと

おもしろいお話をしてくれました。山崎先生は約3月11日にて、今の大学を退職され、五月には、郷里の青島へおもどりになることです。

札幌エス会の1972年の例会は、1月22日より毎週土曜日(18:00~20:00)、夕までとうり中央ダイオキスト学院(南2,西4, tel. 251-4750)で開催します。

編集ノート

本函館エス会は11月27~28日合宿を行なったこと。札幌エス会は12月12日E-祭、新居の子エス会は12月19日に苫小牧と合同で。詳しい報告は次号。

本HELの会員住所録ができました。現在104名。聖蘭のsamideanojのふたつがいのとあわせて個人会員ということになりました。できるだけ早く団体加盟ということに手続してくるよう希望します。

本どういうわけか2重・3重にいろいろ仕事も集中してきて、ツブされそうです。とにかくも多忙は1時間でした。機関紙の発行期間を早稲穂の独自任せ、強力な発行体制を来年は確立させたいものです。(SAWAYA.Y)

* FELIĈAN NOVJARON AL ĈIUJ!

